

古典的ケース 14 多くの症状に悩む腸チフスの男性

少し前、私は腸チフスのケースを RX で治療した。

患者は、60 歳の初老の紳士であったが、ある朝早く、悪寒と頭痛と背痛が始まった。

非常にのどが渇き、落ち着きのなさや胸の痛みがあった。

長く続いた胃の症状の結果として、やがて、やわらかい便と大きな空っぽのおくびの形で現れた。

徐々に、彼の意識は衰え、そして、彼は右の胸の激痛を訴えながら血を吐き始めた。

脈拍は 90 から 120 にわたって激しく変化した。

まもなく痛みは場所と様相を変え、肩甲骨の間に場所をシフトし、現れているその場所と様相が変化するなか、患者からは痛みを伴う悲鳴を引き出す「刺し傷」の様相を現しだした。

彼は Acon. Bell. Phos. と 2、3 の他のレメデイをとったが、症状は着実に悪化し続けた。

精神錯乱は、顕著になり、ベッドから起き上がって走り去ろうとし、また、ありとあらゆる奇妙な幻想を見た。

痛みはその間に肝臓あたりに再び変わり、今度は、ねじれるように痛んだ。

私はもう一度ケースをとり直し、症状が次々変わることに、より大きな重要性を見出した。

RX はケースの真髄を表しているようだった。そして、処方され、患者は安定した回復をした。